

JASMA 会報

2012年1月発行（季刊）社団法人日本縫製機械工業会

CONTENTS

新年ご挨拶	1
平成24年 年頭所感	2
新年賀詞交歓会開催される	3
国際アパレルマシンショー (JIAM 2012 OSAKA) について	3
第32回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクール入選作品決定	4

新年ご挨拶

社団法人日本縫製機械工業会
会 長 安井 義博



年頭にあたり、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年我が国経済は東日本大震災に始まり、原子力災害の影響、供給電力の制限、更には為替の超円高への推移、継続により輸

出競争力が低下するなど厳しい状況にありました。

先行きについては、引き続き為替レート・株価の変動などにより、景気が下振れするリスクが存在し、不透明感が払拭できない状況です。

一方、海外経済は欧州地域の財政の先行き不安の高まりが、世界経済に及ぼす影響が危惧されております。

2012年は「辰（たつ）年」です。「辰」の意味は草木が伸長する状態を表し、初夏に向かう季節とされています。明るく輝く太陽が降り注ぎ、躍動感にあふれる新緑の季節を迎えるように、本年が実り多い明るい年となることを強く望んでおります。

世界のアパレル産業の動向としましては、中国と同様に、ベトナム、インド、バングラディシュ等、アジア新興国にも期待しているところであります。引き続き、日本を始めとして西南アジア・東南アジア新興地域の繊維・アパレル産業全体が、大きく発展するよう当工業会としても力を尽くしてまいります。

一方、縫製機械産業におきましても、このようなグローバル化の動きの中にあって、繊維、アパレル産業など国内関連業界との連携を強化するとともに、特に中国縫製機械協会とは交流、協調を密にし、世界の繊維・アパレル産業の発展に寄与していきたいと考えております。

当工業会といたしましては、このような状況の中におい

て経済産業省をはじめ関係諸機関と連携を図り、次の事業を中心に進めていく所存でございます。

(1) 国際アパレルマシンショー(JIAM2012)の開催

本年9月に大阪で開催するJIAM2012は、いよいよ出展締切が迫っています。国内主要企業を中心に展覧申込が来ており、海外企業からも出展の意向が寄せられ、7年振りに日本の大阪で開催するJIAM2012への大きな期待、高い関心が寄せられています。

今回は「新生JIAM」として最先端の技術、機器のみならず、「繊維、アパレル、ファッション産業のプラットフォーム」を目指して準備を進めております。「先端技術情報発信コーナー」、「人に優しいコーナー」、「クールジャパンコーナー」、「スポーツ&SEWコーナー」の4つから構成される特別企画の展示や、また、縫製関連業界とのリンケージを目的として、IT、ファッション、ビジネス戦略等をテーマにしたセミナーの他、「クールジャパン」、「新繊維素材」等をテーマにしたセミナーを企画しております。

出展申込締切は本年3月30日ですので、世界の関係者の皆様には是非ともご出展いただくとともに、一人でも多くの皆様にご来場いただくことを切にお願い申し上げます。

(2) 家庭用ミシンを使ったモノづくりの普及促進

第32回目となった「ホームソーイング小・中・高校生作品コンクール」は、応募点数が増え、過去最高の4,682点、前年比18%増となりました。来る3月3日（土）には表彰式を開催し、入選作品の発表を行う予定です。また、次の第33回では、従来の「小物・インテリア作品部門」、「衣服作品部門」、「リメイク・デコ

作品部門」の他に、新たな作品部門の新設を検討中です。今後も個性豊かな力作が増え、ミシンソーイングの関心が高まり、より多くの作品が寄せられることを期待しております。

この他にも、知的財産権保護対策を推進させるため、中国縫製機械協会との連携・交流、政府及びJETROなどの関係機関への働きかけを行うとともに、公益法人制度改革への対応として、一般社団法人への移行などを進めてまい

ります。

最後に昨今の企業を取り巻く状況は、依然として厳しいですが、関係各位の更なるご支援、ご協力をいただき、今後とも業界のより一層の発展に向けて努力してまいります。

本年の皆様の一層のご活躍とご多幸を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

平成24年 年頭所感

経済産業省 製造産業局産業機械

課長 藤木 俊光



平成24年の新春を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。

昨年3月の東日本大震災は、被災地はもとより、我が国経済社会に大きな影響を与えました。製造拠点の被災やサプライチェーンの

寸断、電力不足など、我が国産業にとってかつてない試練となりました。

一方で、被災地における共助、助け合いの広がりや我が国産業の素早い立ち直りは、我が国の底力を示すものと考えています。

本年は、被災地の復興に全力を上げるとともに、我が国経済社会の新たな発展に向けて、一步を踏み出す年とすべく、各般の政策課題に取り組んでまいります。

第一に、国内事業環境の整備を進めてまいります。国際経済情勢には不透明感があり、また、歴史的な円高など我が国を取り巻く経済情勢には厳しいものがあります。こうした中、我が国における製造業のサプライチェーン強化と我が国の将来の雇用を支える成長分野への投資を促進してまいります。このため、5000億円の国内立地補助やイノベーション拠点の整備などに取り組むとともに、グローバル企業の研究開発拠点やアジア本社の国内への誘致を促すためのアジア拠点化を推進しております。

かねてからの懸案である法人実効税率の引下げについては、昨年11月に税制改正法案が成立し、復興財源として3年間の臨時増税付きではあるものの、5%の法人税引下げが決定いたしました。

また、電力需給対策も喫緊の課題であり、経済産業省としては、供給力の確保などに全力で取り組んでまいりま

す。中長期的対策としては、再生可能エネルギーの導入へ向けた取組を行うとともに、最適なエネルギー管理を行うスマートコミュニティなどの普及促進支援などにより、新たなエネルギー産業の胎動を経済成長へとつなげてまいります。

第二に、グローバル市場の成長を我が国の経済成長に取り込むため、さらなる海外需要の獲得を支援してまいります。

インフラ分野については、我が国の高い技術力や運営ノウハウといった強みを生かして、需要拡大が見込まれる新興市場獲得を目指します。さらに、海外市場を獲得するためにJBICや産業革新機構を通じた海外M&Aを支援してまいります。

また、主要貿易国・投資相手国との高いレベルでの経済連携の推進が重要であり、日中韓FTAや日EU-EPAなどの経済連携を戦略的かつ多角的に推進していくとともに、TPPについては、交渉参加に向けて関係国との協議を進めてまいります。

第三に、自動車産業と並ぶ、我が国の将来のものづくりの基幹となるべき次世代産業の創出を支援してまいります。産業機械課といたしましても、産業用のみならず生活支援や災害対応など、将来に向けて幅広い需要が予想されるロボットの研究開発や国際標準化の取組を推進してまいります。

本年は辰年です。竜は沼の淵に潜み天に昇る時期を待つと言われております。我が国が雌伏の年を乗り越え天高く昇って行けるよう尽力していく所存です。皆様方におかれましても、本年がより一層の御発展、御活躍の年となることを祈念いたしております。

新年賀詞交歓会開催される

当工業会の平成24年新年賀詞交歓会が、1月17日(火)午後1時30分から日本工業倶楽部3階大ホールにおいて開催されました。経済産業省をはじめ各関係団体と当工業会関係者、報道関係者等、115名の出席のもと盛大に執り行われました。

開会にあたり、当工業会の安井会長から、縫製機械産業を取り巻く環境は厳しい状況であるが、今年の干支の「辰」のように昇竜という形で景気の良い年にしたい。本年9月に大阪で開催するJIAM2012は、「新生JIAM」として「繊維、アパレル、ファッション産業のプラットホーム」を目



安井 義博 会長



藤木 俊光 産業機械課長



中村 和之 副会長



美馬 大道 副会長

指し準備を進めており、特別企画コーナーでは、「ジャパン・クオリティ・ユニット(日本の底力の再発見)」をテーマに日本の繊維関連技術や日本独自の文化を広く世界へ情報発信することとしている。関係者の皆様にご出展いただくとともに、多くの皆様にご来場いただきたい。その他、家庭用ミシンを使ったモノづくりの普及促進、知的財産権保護対策の推進、公益法人制度改革への対応を行っていきたい旨の挨拶がありました。

続いて、ご来賓として出席された経済産業省製造産業局産業機械課 藤木課長殿から、日本の産業基盤を維持・発展させていく課題として、一つは足元の問題として電力を始めとしたエネルギーの供給体制を確立させることであり、中長期的には我が国のエネルギー

構造、需給構造の方向性を模索することである。二つ目は拡大するグローバルマーケットで確かなビジネスをするための強固な基盤作りをしていくことであり、政府としてTPP(環太平洋戦略的経済連携協定)を始めとして、FTA(自由貿易協定)、EPA(経済連携協定)等を大いに進めて行くつもりである旨のご挨拶がありました。

その後、当工業会の中村副会長の乾杯発声の後、和やかな雰囲気での歓談が行われ、中締めを美馬副会長が行い、盛況のうちに終了しました。

国際アパレルマシンショー (JIAM 2012 OSAKA) について

— 出展申込期限 2012年3月30日、期日が迫っています。 —

当工業会が主催する国際アパレルマシンショー (JIAM 2012 OSAKA) は、2012年9月19日(水)から22日(土)まで、インテックス大阪で開催します。7年ぶりに日本の大阪で開催するJIAM 2012への関心がますます高まるとともに、

大きな期待が寄せられています。シンポジウム・セミナーはテーマ、講師等の準備を進め、特別企画コーナーでは、「ジャパン・クオリティ・ユニット(日本の底力の再発見)」をテーマに日本の繊維関連技術や日本独自の文化を広く世界へ情報発信することとしていますので、ご期待下さい。

JIAM 2012の開催概要、出展要項等は、下記のホームページでご覧いただけます。

<http://www.jiam2012.com>

【お問い合わせ先】

(社)大阪国際見本市委員会・JIAMデスク

TEL: 06-6612-1666 E-mail: jiam2012@fair.or.jp



第32回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクール入選作品決定

全国の小学生、中学生、高校生を対象に実施した第32回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクールは、応募校数は前回は上回る595校、応募点数は過去最高の4,682点

の応募がありました。厳正な審査の結果、入選作品などが次のとおり決定しました。

1. 作品賞

- 最優秀賞 5点
- 優秀賞 23点
- アイデア賞 3点
- 佳作賞 36点
- 努力賞 129点
- 全国ミシン商工業協同組合連合会技術賞 1点

2. ホームソーイング振興最優秀校賞

- 小学校の部 仙台市立長町小学校(宮城県)
- 中学校の部 藤女子中学高等学校(北海道)
- 高等学校の部 学校法人石川学園横浜デザイン学院(神奈川県)



小学生の部



前田 恵利 瑞穂市立牛牧小学校(岐阜県)

中学生の部



●小物・インテリア作品部門
齋藤 遼也 松本市立安曇中学校(長野県)



●衣服作品部門
寺田 侑加 磐田市立城山中学校(静岡県)

高校生の部



●小物・インテリア作品部門
加藤 友里 浜松開誠館高等学校(静岡県)



●衣服作品部門
小牟田 梨乃 名古屋市立桜台高等学校(愛知県)

(敬称略)

編集後記

我が国経済は、為替レート・株価の変動などにより、景気が下振れするリスクが存在し、先行きの不透明感が払拭できない状況ですが、今年の干支の「辰」のように躍動感あふれる元気の良い年にしたいものです。

今年はJIAM 2012開催年です。9月の開催に向けて現在鋭意準備中ですが、会員企業が協力して成功に向けて進めてまいります。

今年も魅力ある会報を皆様に提供していきますので、ご意見・ご感想などがあれば遠慮なくお聞かせ下さい。

(K.M)

JASMA 会報

Vol.8 No.4 2012年1月31日発行

社団法人日本縫製機械工業会
発行責任者：榎本 陸

〒105-0003 東京都港区西新橋1-14-12
TEL. 03-3597-0470 FAX. 03-3597-0477

URL <http://www.jasma.or.jp>
Eメール info@jasma.or.jp

本JASMA会報は、当工業会ホームページに掲載しております。